園だより

令和３年 12 月１日（水）

社会福祉法人　新田保育園
園長　野村陽子

『大切な事』

いよいよ、生活発表会「冬まつり」まであと3日となりました。昨年の生活発表会は新型コロナウィルス感染による休園の為、無観客での開催になりました。今年は観覧者をお呼びして開催できる見込みです。職員一同、嬉しい気持ちでいっぱいです。

0歳児みかん組から始まる、物への見立て遊び。1歳児りんご組では生活の中から想像するものを中心にごっこ遊びへ発展。2 歳児ことり組ではその世界がもっと広がります。幼児組になると友だちのことを思う心、大人や年長児への憧れの気持ち、こんな自分になりたい、ちゃんとやりたいという気持ちの成長が育まれます。

年長の子どもたちが太鼓や劇を行っている姿を見ていると自然とそれまでの姿が目に浮かんできます。乳児クラスの時の運動会、入場の輪の中に入る事に戸惑いを感じて抱っこして入場したなぁ。色々な事に興味を示し舞台に立っても探索に夢中だったじゃない。あれ？つい数か月前には思うように乗れなくて竹馬を放り投げていなかった？等々。そんな子どもたちが緊張している友だちの手を繋ぎながら舞台に立っていたり、太鼓を叩いている友だちに声援を送るように口伝を言っていたり、セリフを忘れている子の分までセリフを言っていたりしているのを目にすると目頭が熱くなってきます。乳児期に個々を大切にされ、沢山遊んできたからこそ自分とは違う友だちを大切にし、集団としての繋がりが深まっていくのではないかと思います。

保育の中で冬まつりは一年間の集大成です。それまで、子どもたちとどんな保育を築きあげてきたか？保育が問われる場でもあり、またこれからの保育を考える上で必要な振り返りの場でもあります。ある文献にこんなことが書いてありました。乳幼児期は家を建てるとしたら基礎を作る時代。小学校、中学校ではその基礎に柱を立てそして壁をつけ、家を建てる。基礎がしっかりしていないと、壁がつかないどころか柱さえもしっかりと建たないそうです。本当にその通りですよね。思春期あたりで、このままでは家が建たないと気づいた時には基礎に戻り、乳幼児期の受け止めからまた建て直せばよいそうです。いつでもやり直しはきくし遅いということはないと、私はこの文献を読んで思っています。一番怖いことは、気づかない事、気づかないふりをして進んで行ってしまうこと。振り返る事は自分の保育を突き付けられるようなことでもありますが、足りなかったことに気づけるチャンスでもあります。迷ったら仲間に相談したらいい。子どもに投げかけて一緒に考えたらいい。そんな思いを大切にしています。

文責：石井　あゆみ

12 月の予定

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
12月				冬まつり		りんご組個人面談	健康体育	→	→	→			ぞう組個人面談	→	健康診断（0・4歳児）	避難訓練	→							誕生会・写真の日				保育納め			

＊12 月 28 日で今年の保育は最後となります。新年の保育は1月 4 日からとなります